

日交研シリーズ A-795  
平成 31 年度年度共同研究プロジェクト  
「自動車保険プロジェクト」  
刊行：2020 年 12 月

**自動運転技術の進展が自動車保険に及ぼす影響  
～CASE 革命と保険業～  
Impact of Self-driving Technology Development  
on Automobile Insurance**

主査：堀田一吉（慶應義塾大学）  
Kazuyoshi Hotta

要 旨

自動車産業において、CASE 革命が着実に進行している。その中で、自動運転技術の進展は、経済社会システムに多大な影響をもたらすものと予想されているが、議論はあまり進んでいないようにも見える。とくに、自動車保険については、自動運転車の普及によって、現行システムをどのように変更すべきか、考慮すべき状況に迫られている。

国交省の報告書などでは、自賠責保険について、当面の間は、現行システムを維持することを基本としているが、自動運転車がかなりの水準にまで浸透した次の段階については、結論を先に延ばしている。自動運転車時代における自動車保険システムの在り方は、多様な選択肢があり、今後慎重な議論が求められている。

こうした中で、現行の自賠責保険が、自動運転車が普及した段階では多くの課題に直面することになる。そこで、将来の混乱を見据えて、自賠責保険の改革論議を始める必要があると思われる。

本報告では、自動運転技術の普及が、保険業界とりわけ自動車保険へ与える影響について考察し、保険業界の対応について検討する。

キーワード：自動運転技術、CASE 革命、自賠責保険、人身損害補償システム、  
先進安全自動車

Keywords : Self-driving Technology, CASE Revolution, Compulsory Automobile Liability  
Insurance, Personal Injury Compensation System, Advanced Safety Vehicles